

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 4 月 25 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (4/25 11:00 時点)

| 号機 | 注水状況 | | 原子炉压力容器 下部温度 | 原子炉格納容器 圧力* | 原子炉格納容器 水素濃度 |
|-----|-----------|---------------------------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 1号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレイ系:約 2.0 m ³ /h | 18.4 °C | 104.7 kPa abs | A系: 0.01 vol% |
| | | 給水系:約 2.2 m ³ /h | | | B系: 0.00 vol% |
| 2号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレイ系:約 2.5 m ³ /h | 27.6 °C | 3.62 kPa g | A系: 0.06 Vol% |
| | | 給水系:約 2.0 m ³ /h | | | B系: 0.06 Vol% |
| 3号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレイ系:約 2.5 m ³ /h | 25.5 °C | 0.24 kPa g | A系: 0.07 Vol% |
| | | 給水系:約 2.0 m ³ /h | | | B系: 0.06 Vol% |

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (4/25 11:00 時点)

| 号機 | 冷却方法 | 冷却状況 | 使用済燃料プール水温度 |
|-----|----------|------|-------------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 17.5 °C |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 15.2 °C |
| 3号機 | 循環冷却システム | 停止中 | 15.4 °C* |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 17.5 °C |

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

*3号機使用済燃料プール冷却系停止中のため、使用済燃料プール水温については至近のデータ(4/23 5:00)を記載。

【3号機】

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23 7:05～使用済燃料プール代替冷却系について、燃料交換機本体撤去作業に伴い、当該機器に残存している油が、万が一、当該代替冷却系に混入することを防止するため停止。以降、4/23～6 月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間、停止を予定。停止時間は最長で 129 時間(毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転)。なお、冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 15.4°C で、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.119°C/h で、停止中のプール水温上昇は約 15°C と評価されることから、運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。また、作業にあたっては運転上の制限値 65°C に十分な余裕を持った水温として、45°C を超えることがないよう、使用済燃料プール代替冷却系停止前のプール水温度を 29°C 以下として管理する。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

| 号機 | 排出元 → | 移送先 | 移送状況 |
|-----|---------------|----------------------------------------|-----------------------------|
| 2号機 | 2号機 タービン建屋 | → 3号機タ - ビン建屋 | 4/18 16:39 ～ 4/25 9:42 移送実施 |
| | 2号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋]) | 4/25 10:57 ～ 移送実施中 |
| 3号機 | 3号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋]) | 4/24 10:34 ～ 移送実施中 |

・H26/4/25 13:26～16:15 4号機使用済燃料プールから共用プールへの燃料移動作業において発生する構内用輸送容器(キャスク)内包水(4号機使用済燃料プール水)および構内用輸送容器(キャスク)内洗浄水については、沈降分離処理し、共用プール低電導度廃液受タンクで貯水しているが、そのタンクが満水レベルに達したことから、同タンクから集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)への移送を実施。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (4/25 11:00 時点)

| 設備 | セシウム吸着装置 | 第二セシウム吸着装置(サリー) | 除染装置 | 淡水化装置(逆浸透膜) | 淡水化装置(蒸発濃縮) | 多核種除去設備(ALPS) |
|------|----------|-----------------|------|--------------|--------------|---------------|
| 運転状況 | 停止中 | 運転中*1 | 停止中 | 水バランスをみて断続運転 | 水バランスをみて断続運転 | ホット試験中*2 |

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/4/23 1号機原子炉建屋1階南西エリアに除染装置[高圧水除染装置]を投入。4/24から実証試験を開始。
- ・H26/4/10 13:10 頃 5・6号機所内変圧器6Bにおいて、変圧器下部にある電線用ピット(約2m×約3m)に絶縁油と思われる油溜まりがあることを、パトロール中の当社社員が発見。変圧器からの油の滴下等は確認されていない。なお、当該変圧器については、現在使用されていない。また、同日13:37 双葉消防本部へ連絡を実施。同日 14:40 双葉消防本部の確認において、危険物漏えい事象扱いと判断された。
4/24 4/23から当該ピット内に溜まっていた油(約200L)を回収し、清掃完了。また、油流入のあった当該ピット電線管貫通口にシール処理を実施し、ピット内への漏えい防止処置を実施。今後、原因について調査を行う。
- ・4/25 11:15 頃 発電所構内予備変電所建屋付近の五差路において、燃料移送中のタンクローリー車の下部が、道路上の敷鉄板を踏んで接触したことにより、タンクローリー車の燃料(軽油)が道路上に漏れたことを協力企業作業員が発見。同日 11:23 双葉消防本部へ連絡。油はタンクローリー車が走行した範囲(5m程度)で滴下したが、タンクローリー車の燃料タンクに入っていた約20Lの燃料(軽油)が空になったことにより漏えいが停止。漏えいした油は、タンクローリー車の右側に約1m×約2m、左側に約1m×約1mの範囲で、地面(土)に染みこんでいることを確認。漏えいした油については、吸着マットにより回収を実施。同日 12:22 双葉消防本部より「油漏れ事象」であり「事故事象」ではないと判断された。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<トピックス>

- ・H25/12/10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

<タンクエリアパトロール実績(4/24)>

- ・高線量当量率箇所(β線による70μm線量当量率)は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果】

<トピックス>

- ・H26/4/14～ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

<最新の水位>

- ・各建屋内の滞留水の深さについて大きな変化は確認されていない。

[4/25 14:00 時点の各建屋水深]

焼却建屋:深さ 18.1cm(4/14 移送停止後と比較し、0.5cm 増)

工作建屋:深さ 5.0cm(4/14 移送停止後と比較し、変化なし)

<最新のサンプリング実績>

- ・大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は
4/25 0:00 時点で約 10,820m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<移送関係>

- ・2,3号機東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な排水設備)からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・H26/1/29～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔(No.1-16(P))からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上